

第1回「革新的製造プロセス技術開発（ミニマルファブ）」研究開発プロジェクト
終了時評価検討会 議事要旨

1. 日 時 平成27年12月25日（金） 13:55～15:56
2. 場 所 経済産業省本館6階 第4会議室
3. 出席者 菊池委員、中村委員、原委員、平本委員、和田木委員
研究開発実施者：国立研究開発法人産業技術総合研究所、ミニマルファブ技術研究組合
事務局：製造産業局産業機械課、産業技術環境局技術評価室

4. 議題
「革新的製造プロセス技術開発（ミニマルファブ）」研究開発プロジェクト終了時評価

5. 議事概要

(1) 座長選出

委員の互選により、平本委員が座長に選任された。

(2) 研究開発評価に係る委員会等の公開について

事務局から資料2により検討委員会の公開について説明がなされた後、検討会に諮り、配付資料、議事録及び議事要旨を公開することについて、了承された。

(3) 評価の方法等について

事務局から、資料3を用いて説明が行われた。

(4) プロジェクトの概要と評価用資料について

事務局及び研究開発実施者から、資料5及び資料6により、革新的製造プロセス技術開発（ミニマルファブ）プロジェクトの概要について説明を行った。

主な質疑は以下のとおり。

委員から、研究開発実施者は、万能化について、どのように考えているかという質問があり、隠れた万能化つまり高い技術を標準化することで価値を生み出すことを考えていると回答した。

また、委員から、プロセス上で一部の装置の完成度が十分でないと同っているが、個々の装置の性能面に関する目標設定及び評価についてどのようになされているかという質問があり、イオン注入装置とCVD装置については、実用化という意味ではまだ完成していない状況だが、これらの機器は、小型化できる目途を立てるということプロジェクトの目標にしており、その意味では、全ての要素技術を小型化し、目標を達成していると回答した。

また、委員から、ミニマルファブは、ウェハをミニマルシャトルの中に入れたら、空気に触れずにデバイスプロセスを完成することができることが特徴であると考えますが、不良率がゼロかどうかということを確認してアウトカムを議論をすることにも意味があるのではないかと質問があり、現時点では完全密閉はできていないが、システムとして基本原理部分は達成していることから、プロジェクト終了後の技術的なアウトカムとして進めていきたいと回答した。

(5) 今後の評価の進め方について

事務局から、資料8の評価コメント票について説明を行い、評価コメント票の提出期限を平成28年1月15日(金)とすることを確認した。

また、次回の開催については、書面審議とすることとした。

(6) 閉会

以上